

〔照屋仁士議員 登壇〕

○8番 照屋仁士君 それでは、通告に従い質問をしたいと思っております。平成30年第3回定例会は、改選後、初めての定例会になります。私も去る3月20日に議員辞職をして、7カ月ぶりに議場に帰ってまいりました。赤嶺正之町長を初め、執行部の皆さん、また今回当選されました同僚議員の皆さんに、改めてよろしくお願いを申し上げます。今回の質問は、これまで私も町民の皆さんとともに作り上げてきました、私の目指す今後4年間の南風原町について、執行部の皆さんがどのように考えているのか、認識を確認するための総体的な内容となっております。同じ認識を持っているのか、そうでないのか、また十分か、不十分か、実行するかしないかなど、できるだけ町民の皆さんにわかりやすく答弁いただけますようお願いを申し上げます。

それでは1点目から一問一答で行いたいと思っております。大きい1つ目、まちづくりを上向きにであります。（1）まちづくりを上向きにするために、南風原町をつくるのは「ひと」だと考えております。青年会を初め、女性会、老人会、PTAなど地域活動の核となり、支えていくのは社会教育だと考えております。町としては現状をどう考え、これからどのような支援をしていくのかお答えください。（2）まちづくりを上向きにするために、一番住民に近い地方自治は自治会にあると考えます。これまでの住民意思の施策へ反映するあり方、また自治会に対する支援は十分かどうか。自主防災組織を初め、事務委託のあり方、自治会加入率など、さまざまな部分でより連携を深める必要があると思っております。どのように考えるかお答えください。（3）まちづくりを上向きにするために、力強く町内産業を支援する必要があると考えます。高付加価値の自然・有機栽培農業を初め、琉球餅や南風原花織の販路拡大、また土地利用の見直しなど、より具体的な発展方法を目指してほしいと思っておりますがどのように考えるかお答えください。よろしくお願い申し上げます。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 それでは質問事項の1点目、まちづくりを上向きにの（1）についてお答えいたします。町教育委員会としても、各種社会教育団体活性化のために「南風原ふるさと発見ウォーク」の開催、それから社会教育委員が毎年行っている各自治会公民館訪問を通して、社会教育関係団体結成の奨励、それから助言を行っております。今後とも、社会教育団体への補助金交付、活動に対する助言等を行い、社会教育活動推進に努めてまいります。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項1点目の（2）についてお答えします。毎月2回の区長会を通して、各区長、自治会長と連携を行っております。各字自治会において、コミュニティ意識の希薄化等、さまざまな要因により自治会加入率は減少傾向が共通の課題であり、自治会運営は大変厳しい状況にあります。特に近年は、災害時に住民同士がお互いに助け合う「共助」の必要性が重要であることから、普段の活動においても、魅力ある自治会となり、自治会加入者が増加していくよう、町行政としても自治会との連携を行ってまいります。（3）についてお答えします。農業や伝統工芸などの地域地場産業を支援育成する基盤強化等を図るとともに、関係する事業者や地権者との協議・調整などを行い、町としての支援を検討してまいります。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 それでは（1）から順を追って再質問していきたいと思っております。まず、南風原町をつくるのは「ひと」ということで、社会教育、人材育成全般について考えていますが、この中で、今現状行っているふるさと発見ウォークですとか、社会教育指導員の皆さんを初め、社会教育委員の皆さんの活動については触れていただきましたが、現状をどう考えるかという点が少し読み取れないと考えます。私としては、この社会教育というのは、学校教育だけでなく、学校教育から社会教育、そして生涯にわたる学習ということ、大きな柱の一つだと認識しておりますが、現状の取り組みの中で、やはり教育行政として、私は学校教育に少し偏重して重きが置かれているのではないかと感じております。その辺で、社会教育をどのように考えるかお答えいただければと思います。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 社会教育というところですが、議員がおっしゃるような学校教育と少し分けて考えている部分もございしますが、社会教育というのは人が生きていく上でいろいろなものを必ず学ばないといけない。おっしゃりたいところも、直接的なところもそうだと思うのですが、社会教育の仕事は、直接的、間接的に、学びの手助けをしながら、その学びが、ひいてはまちづくりとかにも関係していくということで、非常に大

10月10日（第4号）一般質問

きな分野のものだと考えています。我々の部分としては、そういう結びつきとか学びのところから、社会教育というところを充実させていきたいと考えています。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 その姿勢は同じ考えであります。ただそういう中で、先ほど言ったように予算的なもの、人間的なもの、そして現状、今南風原町の置かれている、例えば青年会の皆さんとか、女性会の皆さんの各地域の結成率とか、町単位での取り組みが若干少ない、弱りつつあるということも、これまで指摘を何度もされてきました。つまり、社会教育もこれまでの時代とともに変わりつつあるというのが全国的にも、さまざまな研究分野でもわかっています。この社会教育をしっかりと支えることがこれからのまちづくりにも直結していくという、さまざまな事例が、私もこれまで紹介をしてきましたが、これかからもともにやっていきたいと思えます。そういったこれまでどおりではなくて、社会教育も支えたり、そしてまた応援する姿勢を持つ、そういったことは姿勢として必要ではないかと考えますが、現状も踏まえどのように考えるかお答えください。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 ご提案のとおりだと考えております。今現在もそういうことが大切ですので、社会教育団体への補助金とか、いろいろな場面を通しての教育、特に学校での地域コーディネーター等を配置して、子供たちの時代からいろいろなものを教える。それから各公民館においては、コミュニティーを大切にするためのいろいろな支援をさせていただいています。今後ともその辺を充実させて、社会教育の充実を図っていききたいと思っております。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 ぜひとも、予算措置、人員、またそれぞれ体制の強化、さまざまな取り組みがあると思えますので、ぜひともそのように進めていただきたいと思います。

(2)に移ります。自治会加入率については触れていただきました。昨年11月15日に議会が開催いたしました意見交換会の中でも、自治会の皆さんから多数の意見が寄せられ、その中で人口の少ない自治会の事務委託料だったり、事務委託の内容についても議会として取り上げてくれという内容がありました。私としても、この事務委託のあり方ですとか、またこの答弁では共助の必要性ということに触れていただきましたが、今求められている自主防災組織を初め、幾つかのワードがあるのではないかと考えています。改めて行政が認識している課題について、どういった課題があるかお答えいただければと思います。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 我々が各自治会の課題について認識している点は、まず自治会加入者率の減少、自主防災組織結成の課題、また厳しい財政状況、民生委員等の各種委員の人材確保などが困難で、課題だと認識しております。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 ありがとうございます。そのような幾つかの課題、認識は同じところだと思えます。この中でも、答弁でも触れたように、自治会運営自体も厳しく陥るような状況があると。やはりさきに述べたように、私としては一番住民に近い地方自治、法律的には市町村ですけれども、やはり自治会の活動に対しても事務委託を行っている以上、非常に大切なことだと思います。これからもこの課題をぜひとも解決するために、新たな取り組みも含めて検討してほしいと思えますが、いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 長としても、自治会は住民自治の最前線にあるということで認識しておりますので、各字、各自治会の課題については我々も連携して課題解決に取り組んでいきたいと考えております。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 ありがとうございます。(3)に進めます。さまざまな農業だったり地場産業についても、これから事業者、地権者の方と協議・調整、発展に向けて取り組むということで答弁をいただいております。私と認識も同じであるが、まだ不十分な点もある。つまり、さらに事業者の声をしっかりと聞き、これからの施策についてもつくっていく必要がある、マッチングが大事だと考えますが、そのような認識でよろしいかお答えいただければと思います。

○議長 知念富信君 経済建設部長。

○経済建設部長 神里操也君 議員が今考えているとおり、マッチングは重要だと認識しております。

10月10日（第4号）一般質問

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 それでは大きい2点目の質問に移りたいと思います。それぞれの暮らしを上向きにであります。（1）それぞれの暮らしを上向きにするためには、子育て全力応援が必要だと考えます。待機児童解消はもちろん、全ての子供たちが保育・医療・家庭環境の充実を実感できるよう取り組んでほしいものであります。そのためには、子供たちや学校現場が望む環境づくりが必要だと思いますが、現状をどう考えるかお答えください。（2）それぞれの暮らしを上向きにするために、働きやすい、住みやすい、そして町民所得の向上を目指すべきだと考えます。企業誘致や雇用創出はもちろん、指名入札の抜本見直し、社会貢献加算制度など、事業を営む方も、従業員として働く方も、ともに発展できるよう、経済団体・労働団体と連携して、町民所得向上を目指すことについてどう考えるかお答えください。（3）それぞれの暮らしを上向きにするために、命を守る消防救急の強化が求められます。東部消防本部の新庁舎建設、大型マイスへの対応や、消防・救急がこれまでよりも充実し、安心して暮らせるよう望まれますが、どのように考えるかお答えください。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項2点目のそれぞれの暮らしを上向きに（1）についてお答えします。子育て世代の支援について、まず福祉部門においては、子供が母親のお腹にいるときから、子供が自立するまでの期間を切れ目なく支援する体制づくりに向けて、現在、町地域福祉推進計画の見直し作業の中で議論を進めているところであります。学校現場においては、支援員や相談員等の配置に努めており、空調設備整備を初めとした、よりよい教育環境の充実を図りたいと考えております。（2）についてお答えします。地域経済の自立的発展、本町の中小企業の成長が必要不可欠であることから、効果的な中小企業支援策や雇用支援策を展開するため、商工会を中心に各種団体との連携が必要だと考えております。（3）についてお答えします。本町を含め、東部消防管内の人口増加、交通網の充実による往來の増加及び都市化に伴う高層住宅増加など、消防救急体制強化の必要性は認識しております。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 まず（1）の子育て全力応援のところですが、福祉部門と学校部門ということでお答えいただきました。まず福祉部門においては、本町は子育て支援に力を入れていると、私も認識しています。しかしながら、まだ取り組み半ばのさまざまな問題があるのも事実だと考えます。国や県、さまざまな制度に当てはめるだけではなく、ケースバイケースでの対応だったり、また全ての子育て環境、さまざまな環境の過程があります。そういったところにも目配りが必要だと考えますが、町としての姿勢はどのように考えるかお答えください。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 議員おっしゃいますように、制度の通り一辺倒の部分ではなくて、これは相手がお母さんであり、また子供ですので、全てがケースバイケースの部分でございまして。しっかり、そのケース、ケースによる課題を一緒になって、解決に向けて支援していくという、その取り組みを今後とも続けて、よりよい子育て支援につなげていきたいと考えます。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 ありがとうございます。そのように取り組んでいただきたいと思います。次に、学校現場においてということでお答えいただいておりますが、さまざまな支援員など、今取り組んでいる制度、また空調整備、クーラーの導入などを初めとした環境整備を評価するところであります。そのような中で、やはりこの学校現場が求める課題というところで、大きなテーマが教員の多忙化というところがあります。そういった中で、昨年度、タイムカードの導入などがあったと思いますが、どのような効果があらわれていて、今どのような取り組みを進めているかお答えいただければと思います。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 野原 学君 WAONカードによる出退勤システムの導入により、出退勤が可視化され、管理が容易になり、超勤の要因が判断できるものにはなっておりますが、直接この導入によって業務の多忙化が改善されるというものではありませんので、現場のほうで、早目に帰るとか管理者からの指導などを、今行っている状況でございまして。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 見えるようになって、課題がこれから出てくるのだろうと感じます。何よりも、教職員の皆さんが多忙化を解消することで、やはり子供たちに接する気持

10月10日（第4号）一般質問

ちだったり、その学習内容については、私は大きく変化するものだと思います。ぜひともこの問題の解消に向けて取り組んでいただきたいことと、またこれまで本町は電子黒板の導入を初め、さまざまな環境整備にも取り組んでいます。今、クーラーの設備をやっておりますけれども、細かな学校の求める、現場が望む環境整備というものは、毎年変わっていき、課題があると。なくなることはなかなかないのだろうと思いますが、ぜひとも、現場が望む環境づくりについても聞き取りながら、そういった課題解決に向けて取り組んでいただきたい。大きな環境整備というところだけではなくて、現場がどのようなことを望んでいるのか、そういったところにも目を向けてほしいと考えるわけですが、いかがお考えでしょうか。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 元来、教育委員会は、町民、子供から高齢者まで、全ての人が学ぶ、そして健康づくりをするというのが使命だと考えております。当然ながら学校教育において、学校の現場からの声、それには全て応えていきたいという考えで対応はしておりますが、やはり優先順位とかそういったもろもろの条件もございますので、今後もやはり学校現場の要求にできるだけ応えていけるように、ひいては子供たちの健やかな成長につながる施策は、積極的に取り入れていくという考えでございます。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 ありがとうございます。ぜひともこれまで以上に取り組みを進めていただきたいと思っております。

(2)に移ります。地域の経済、本町の企業の発展、そういったところで連携を深めるというところで答弁をいただいております。その中で、町民所得の向上を目指す、そういったワードを私としては重要にしていきたいと考えているわけですが、つまり町民所得の向上、個人町民もおりますし、法人の町民もいます。全てがイコールとは申し上げませんが、この町民所得の向上によって、税収の増加にもつながる側面があります。つまり、企業が発展するだけではなく、本町としても税収を生みながら、ウィンウィンのまちづくりを目指すことにもつながると考えるわけですが、その点、いかがお考えかお答えください。

○議長 知念富信君 経済建設部長。

○経済建設部長 神里操也君 お答えします。確かに議員がお考えのとおり、町民の所得が上がれば町の税収も上がりますので、そこについて所得向上を目指すということは同じ考えでございます。一例といいますか、回答になっているかわかりませんが、例を挙げますと、例えば企業が新たに企業を設立したいとか、そこら辺にあわせてやはり商工会に加入している業者においては、利息が低金利で借りられるとか、その辺で、そういった企業も設立しやすくなっているということもございまして、その辺も企業所得の向上につながるということが、商工会ではそういったこともやっているということがございます。そういったものも含めて、同じように町の所得向上に向けて、今後も商工会と連携して、向上に向けて取り組んでまいりたいということでもあります。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 個人の町民の皆さんの所得、また法人の所得、また町内企業を育成することで、町内の個人の皆さんを雇っていただく、さまざまなことがウィンウィンの関係になれるのではないかと思います。私もこれからそのような方向で提案をしていきたいと考えます。

(3)に移ります。消防救急の件であります。これまでの東部消防管内の状況、また強化の必要性については触れていただきました。しかしながら、今年度予算、平成30年度予算において、その消防のレベル、県内トップレベルだからという理由だけではありませんけれども、非常にレベルの高い状況にあると。そういった中で、前年並みの予算措置にとどまると記憶をしております。その結果、消防財政においては、東部消防、財政調整基金を取り崩さなければ予算が組めない状況になるなど、一部事務組合と構成各町との認識のずれがあったと理解をしています。消防において、職員数や消防団員数、また、事業や資器材が強化される、そのような計画があるのにもかかわらず、予算が伴わないというのは、非常に大きすぎる認識のずれだと感じます。今後、庁舎建設を初め、中長期計画の具体的な展開についても議会に示していくと、東部消防議会では答弁をされています。改めて、本町の立場として、予算措置を初め、消防救急の強化を求める、私としては求めていきたいと考えますが、どのような認識かお答えください。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 消防の充実強化につきましては、今回台風24号、25号で大規模

10月10日（第4号）一般質問

な、非常に大きな台風が来しました。その中で我々総務部としても、救急消防と連携する中で、非常に大切さを痛感して、認識しているところであります。また、今後も充実強化をしていくべきだと考えておりますが、消防庁舎の建設とか、大型機器の導入に当たっては、やはり構成3町との計画と、消防との計画もすり合わせていかないと考えております。今年度において、平成31年度の予算編成においては、消防の各構成3町の予算編成方針説明会にも消防職員を案内するなど、消防と構成3町の財政と、計画と連携していくという取り組みを行っているところであります。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 具体的な取り組みは、東部消防組合でなされると思いますけれども、やはりその内容に応じて予算措置をしていくという姿勢が必要だと思います。そのような取り組みを進められていると理解して、次に行きたいと思います。

3点目に、南風原町を上向きにであります。（1）南風原町を上向きにするために、広く大きな視野で「南風原」を育む必要があると考えます。今、生まれ始めた、はえばる型観光の創出や、新たな交通網など、海外初め他市町村や国・県の施策を広く学び、町政に反映させてほしいと考えますが、いかがお考えかお答えください。（2）南風原町を上向きにするために、行政をしっかりとチェックし、未来へ責任を果たすべきと考えます。そのためには借金財政を改善させ、第5次総合計画を初め、行政の方針・計画・施策をしっかりと分析し、現在の状況を「見える化」することで、町民がわかるよう取り組むべきだと、私自身考えております。どのように考えるかお答えください。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項3点目の南風原町を上向きに（1）についてお答えします。ご質問のとおり、他市町村や先進地等の施策を調査・研究することは、本町の発展にとって大変重要だと考えております。今後も常に広い視野を持ちながら、町民の福祉向上につながる施策を模索し、町政に反映してまいりたいと思います。（2）についてお答えします。昨年策定した町中期財政計画に基づき、健全で持続可能な財政運営に取り組んでまいります。また、各種計画等についてもPDCAサイクルによる進捗管理を行い、審議会等において検証・評価し、その内容を町ホームページで公開しております。今後も町民皆様にわかりやすいよう工夫してまいります。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 まず（1）の取り組みですけれども、今、沖縄県経済が好調と言われる要因に、その大きな柱として観光産業が挙げられています。年間1,000万人を超えるであろうと言われている観光産業の中で、本町の取り組み、新しい取り組みが芽生えているのを評価しつつもまだまだ足りない部分がある、学ぶべき部分があると考えます。これについては、公共交通、鉄軌道を初めとする骨組みの背骨の部分と、あと基幹交通の取り組みなど、その辺も加えると、非常にまだまだ足りないのではないかと私は現状を認識しております。今後も他市町村、またおくれをとらないように頑張っていってほしいと考えますが、いかがお考えでしょうか。お答えください。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 先ほど副町長からも答弁がありましたとおり、議員提案の広い視野を持ち、施策を展開していくことは非常に大事なことで認識しております。また、公共交通についても、各市町村と連携して研修会を持つなど、それ以外にも職員を研修会に参加させて、資質向上に向けて努めているところであります。今後も引き続き、いろいろな情報を収集して、行政内に反映させていきたいと考えております。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 現状も、他市町村頑張っている中で、南風原町もこの分野については先進地であると言えるような、そういった取り組みを進めていただきたいと思っております。

（2）であります。行財政のチェックと見える化ですけれども、財政について、中期財政計画についても触れいただきました。今ある借金、全てが悪いということではありません。しかしながら、非常に大きな財政負担がこれからはあって、現に事業が削減されているという事実があります。ぜひともこの借金財政を立て直す手法は、削減ありきではなく、増収の観点を持っていただきたい。また、増収についても国、県の補助事業、そういった補助金ありきではなく、ぜひとも先ほど触れた町民所得の向上による増収を目指してほしい、そのような観点で進めてほしいと思っております。どのようにお考えかお答えください。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 議員同様、我々も削減ありきのサービスではなくて、自主財源

10月10日（第4号）一般質問

の増によるサービスの質を低下させない行政運営を行ってまいりたいと考えております。ただし、先ほど議員がおっしゃった借金体質の行政運営ということがありました。これは借金体質ではなくて、地方財政法第5条に基づく地方債を活用することができるという法律に基づいて、建設事業、また目的に合った起債を活用しており、起債の目的としてはいろいろ、世代間の公平、年度間の公平とかいろいろ目的があって活用しており、借金体質ということでは決してございません。また、町の残高、起債残高が平成29年度末では約160億円ありますが、その半分については交付税措置であります。ですから、町の実際の一般財源で返済する町債残高は約70億円台ということで認識しておりますので、決して借金体質の行政運営ではないということで認識しております。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 丁寧にご説明をいただきました。私もこのような表現の仕方をしていくにはわけがあります。財政状況においては、今言うように、さまざまな指標だったり評価基準があります。そういった中で、しかしながら、その指標に基づいて健全であると言っていますが、厳しい財政事情である、そういう表現は繰り返し使われているわけです。それ自体が町民には伝わっていない。町民の側に立って、わかるように、伝わっていないというのが私の考える現状であります。いかに指標がクリアされていて、法律上の問題がなくても、町民の皆さんにどう理解してどう見てもらえるかということが大事なことであります。その認識は一致すると思いますが、どのようにお考えでしょうか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 我々、6月には予算、12月には広報等で決算について町民にお知らせしているところでありますが、やはり我々の財政の状況の認識と、やはり町民の皆さんは情報の量が違いますので、認識の違いはあると思しますので、これからはさらに財政状況について知らせていくように努めていきたいと考えております。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 ありがとうございます。右肩上がりに財政状況に希望が見えていれば、なかなかこういう質問も出ないわけですが、お互いにわかっているとおり、国からのお金を初め、やはり自主財源を生み出していくというのは大変苦勞も伴いますし、また町民の皆さんに理解をしていただかないと、まちづくりは上向きになっていかない。南風原町は上向きになっていると実感できない、そのように考えて質問をしているところであります。ほぼ認識は一緒だと思いますので、これから4年間、ともに執行部の皆さんと取り組みを進めながら、私なりにも学習を積んで、提案できるものを提案していきたいと考えていますので、よろしく願います。以上で終わります。